

intra-mart WebPlatform / AppFramework Ver.7.2

移行ガイド

2011/09/30 第2版

<< 変更履歴 >>

変更年月日	変更内容
2010/04/01	初版
2011/09/30	第 2 版
	・ドキュメントのタイトルの誤字を修正

<< 目次 >>

1	はじめに.....	1
1.1	注意事項.....	1
1.2	制限事項.....	2
1.3	移行手順の概要.....	2
2	移行.....	3
2.1	DBデータのバックアップ.....	3
2.2	IMv7.1からのアカウントデータのエクスポート.....	3
2.3	IMv7.2のインストール.....	3
2.4	IMv7.2のライセンス登録.....	3
2.5	設定ファイルの移行(その1).....	4
2.5.1	データ移行モジュールのコピー.....	4
2.5.2	データ移行用ファイルのコピー.....	4
2.5.3	クライアント通知関連のResourceServiceコンテンツの移行.....	5
2.6	データベース接続の設定.....	5
2.7	IMv7.2の起動.....	5
2.8	ログイングループの作成.....	6
2.9	設定ファイルの移行(その2).....	8
2.9.1	ワークフロー関連のStorageServiceコンテンツの移行.....	8
2.9.2	アプリケーション共通マスタ関連のStorageServiceコンテンツの移行.....	8
2.9.3	ポータル関連のStorageServiceコンテンツの移行.....	8
2.9.4	クライアント通知関連のStorageServiceコンテンツの移行.....	8
2.10	データ移行モジュールによる初期データインポート.....	9
2.11	アカウントデータのインポート.....	11
2.12	JSR168/286ポートレットの更新.....	11
2.13	BPMプロセスの移行.....	11

1 はじめに

intra-mart ver7.2(以下 IMv7.2)は、他の intra-mart プロダクト(ver1.x、ver2.x、ver3.x、ver4.x、ver5.x、ver6.x 及び該当の上で動作する intra-mart アプリケーション)とは基本構成が異なる理由のため、同一環境での共存が不可能となります。

intra-mart ver7.1 (以下 IMv7.1) をご使用のお客様は、この章で説明するデータ移行の手順により、システム関連情報を IMv7.2に移行する事が可能となります。

(重要) データ移行作業を行う前に、IMv7.1 の最新パッチがインストールされていることをご確認ください。最新パッチが当てられていないと、正常にデータ移行を行うことができません。

本章では、IMv7.1 から IMv7.2へのシステムデータ、ポータルデータ、ワークフローデータの移行に関して説明します。

(お客様が独自に作成されたプログラムやデータ等は、別途、移行作業が必要です)

1.1 注意事項

下記の条件を必ず守って、IMv7.2のインストールを行ってください。

全ての条件を満たしていない場合は、動作に不具合が生じ、再インストールを施さなければなりません。

また、データベース上のデータについても矛盾やロストといった不整合が発生する可能性があります。

十分にご注意ください。

- (1) 移行作業を行う前に、DB データのバックアップを行い、移行時における障害発生時に復元可能な状態であることを確認してください。
- (2) 他の intra-mart プロダクトが使用しているディレクトリに、移行先である IMv7.2のインストールを行わないでください。(※ 新規ディレクトリにインストールを行ってください。)
- (3) 移行先の IMv7.2は、インストール直後にライセンスが登録されただけの状態であればなりません。
- (4) 必ず移行手順にしたがって初期起動を行ってください。インストール後にサーバを起動してしまった場合、正常にデータ移行が行えません。(この場合、再インストールを行ってください。)
- (5) 移行先である IMv7.2は、予めライセンス登録状態を IMv7.1 と同じライセンスを登録しておく必要があります。(「スタンダード版→アドバンスド版」および「アドバンスド版→エンタープライズ for BPM」のような製品の種類が違う移行はおこなえません。)

1.2 制限事項

1. IMv7.2では、intra-mart AppFramework をお使いの場合は、WSRP 機能は利用できません。
2. IMv7.2では、初期状態でモバイルアクセスが無効になっています。アクセスを有効にするには、<% Server Manager %>/conf/system.xml に記述されているクライアントタイプ「mobile」を有効にしてください。詳しくは、「セットアップガイド」を参照ください。
3. IMv7.2では、WSRP のプロデューサ設定およびコンシューマ設定は移行されません。IMv7.1 で設定を行っている場合、移行の完了後にそれぞれのグループ管理者の画面で、再度設定を行ってください。詳細は、「ポータル WSRP 管理者操作ガイド」を参照ください。
4. IMv7.2 で IM-共通マスタをご利用の場合は、別途セットアップを行う必要があります。IM-共通マスタのセットアップは、IMv7.2 のインストール及び移行作業完了後に行ってください。IM-共通マスタのセットアップに関しては、「IM-共通マスタセットアップガイド」を参照ください。

1.3 移行手順の概要

以下に、データ移行手順の概要を示します。

- (1) DB データのバックアップ
- (2) IMv7.1 からのアカウントデータのエクスポート
- (3) IMv7.2のインストール
- (4) IMv7.2のライセンス登録
- (5) 設定ファイルの移行(その1)
 - ◆ データ移行モジュールのコピー
 - ◆ データ移行用ファイルのコピー
 - ◆ クライアント通知関連の ResourceService コンテンツの移行
- (6) データベース接続の設定
- (7) IMv7.2の起動
- (8) ログイングループの作成
- (9) 設定ファイルの移行(その2)
 - ◆ ワークフロー関連の StorageService コンテンツの移行
 - ◆ アプリケーション共通マスタ関連の StorageService コンテンツの移行
 - ◆ ポータル関連の StorageService コンテンツの移行
 - ◆ クライアント通知関連の StorageService コンテンツの移行
- (10) データ移行モジュールによる初期データインポート
- (11) アカウントデータのインポート

2 移行

2.1 DBデータのバックアップ

移行作業を行う前に、DBデータのバックアップを行い、移行時における障害発生時に復元可能な状態であることを確認してください。DBデータのバックアップについては、各データベース製品のデータバックアップ手順(ご利用のデータベース製品に付属のマニュアルを参照)に従ってください。

2.2 IMv7.1からのアカウントデータのエクスポート

(注意) この操作は登録されているログイングループごとに行ってください。

- (1) IMv7.1にログイングループ管理者でログインしてください。
- (2) メニューから[ログイングループ管理]-[アクセスセキュリティ情報入出力]-[エクスポート]を選択します。
- (3) 右フレームの「アカウント」をチェックし、[ファイル]に出力するファイル名を指定し、[エクスポート]ボタンを押下します。
- (4) 指定したファイルにデータが出力されていることを確認します。
- (5) 複数のログイングループが存在する場合、出力ファイル名が重複しないように注意してください。
- (6) ロール、メニュー、カレンダー、バッチ情報はエクスポートする必要はありません。
- (7) データの形式については、以下のファイルを参照してください。

<% IMv7.1 ServerManager ルートディレクトリ %>/specification/dtd/account.dtd

2.3 IMv7.2のインストール

「セットアップガイド」にしたがって、IMv7.2のインストールを行ってください。

この時点で、intra-martの起動を行わないでください。

intra-mart AppFrameworkをお使いの場合、ここではWARファイルの作成とApplicationServerへのデプロイを行わないでください。

2.4 IMv7.2のライセンス登録

IMv7.2のライセンス登録を行ってください。

移行先であるIMv7.2は、予めライセンス登録状態をIMv7.1と同じライセンスを登録しておく必要があります。

2.5 設定ファイルの移行(その1)

2.5.1 データ移行モジュールのコピー

- 製品の種類が [スタンダード] および [アドバンスド] の場合
本製品 CD-ROM の「iwp_iaf/migration/licenses/im_migration.jar」を、
「<% IMv7.2 ServerManager ルートディレクトリ %>/licenses/」ディレクトリにコピーしてください。
- 製品の種類が [エンタープライズ for BPM] の場合
本製品 CD-ROM の「iwp_iaf/migration/licenses_bpms/im_migration.jar」を、
「<% IMv7.2 ServerManager ルートディレクトリ %>/licenses/」ディレクトリにコピーしてください。

2.5.2 データ移行用ファイルのコピー

本製品 CD-ROM の「iwp_iaf/migration/storage/system/migration/」ディレクトリにデータ移行用ファイル(.sql ファイル)が格納されています。
これらのファイルを、「<% IMv7.2 StorageService ルートディレクトリ %>/storage/system/migration/」ディレクトリにコピーしてください。

(注意) Microsoft SQL Server で運用している場合

本製品 CD-ROM の「iwp_iaf/migration/storage/system/migration/for_sqlserver/」ディレクトリに格納されているデータ移行ファイル(v71_to_v72_migration_portal.sql)を、「<% IMv7.2 StorageService ルートディレクトリ %>/storage/system/migration/」ディレクトリに上書きでコピーしてください。

- Microsoft SQL Server を文字コード「UNICODE」で運用している場合

```
<% Server Manager%>/plugin  
    /jp.co.intra_mart.foundation.system.ddl_converter.standard.nvarchar_7.1.0/plugin.xml
```

上記設定ファイルの enable を true に変更してください。

```
<plugin>  
  <extension  
    point="jp.co.intra_mart.foundation.system.ddlConverter" >  
    <ddl-converter  
      name="standard DDL Converter nvarchar"  
      id="jp.co.intra_mart.foundation.system.ddlConverter.standard.nvarchar"  
      version="7.1.0"  
      rank="0"  
      enable="true" > ← ここを true に変更します  
      <replace db-type="SQLServer" regexp="(¥W)varchar(¥W)" replacement="$1nvarchar$2"/>  
    </ddl-converter>  
  </extension>  
</plugin>
```

2.5.3 クライアント通知関連のResourceServiceコンテンツの移行

IMv7.1 にてダウンロードサイトのダウンロードリンクの変更を行っていた場合は、以下のファイルを、ディレクトリ構造を保ったまま IMv7.2 にコピーして下さい。

```
<% ResourceService %>/platform/src/client-notice/client-notice.ini
```

詳しくは、「クライアント通知 設定ガイド」を参照ください。

intra-mart AppFramework をお使いの場合、ここで WAR ファイルを作成し、ApplicationServer にデプロイしてください。

WAR ファイルの作成および ApplicationServer へのデプロイについては、セットアップガイドを参照してください。

2.6 データベース接続の設定

IMv7.2 のデータベース接続の設定を行ってください。(IMv7.1 運用時と同じ設定を行ってください)

尚、IWP(Resin)を利用している場合は、「2.7 IMv7.2 の起動」の後、システム管理者の画面でデータソースの設定を行うことが可能です。

設定方法に関して詳しくは「セットアップガイド」を参照ください。

2.7 IMv7.2 の起動

IMv7.2 を起動します。

2.8 ログイングループの作成

IMv7.2に対して、ログイングループを作成します。IMv7.1 運用時と同じログイングループIDでログイングループを作成してください。

(注意)

IMv7.2よりログイングループ単位でのアプリケーションロール数の設定が必須となっています。

システム全体で保有する各アプリケーションロール数をログイングループ単位で振り分けてください。

アプリケーションロール数の最大数はIMv7.1のログイングループ管理者のアプリケーションロール一覧画面で登録したアプリケーションロール数以上の値を設定して下さい。

IMv7.1で登録したアプリケーションロール数より小さい値を登録した場合は、「2.11 アカウントデータのインポート」にて、アプリケーションロールが正しくインポートされません。

以下にアプリケーションロール数の設定例を記述します。

例)

IMv7.1ではログイングループごとのアプリケーションロール数は、図1のように登録されています。

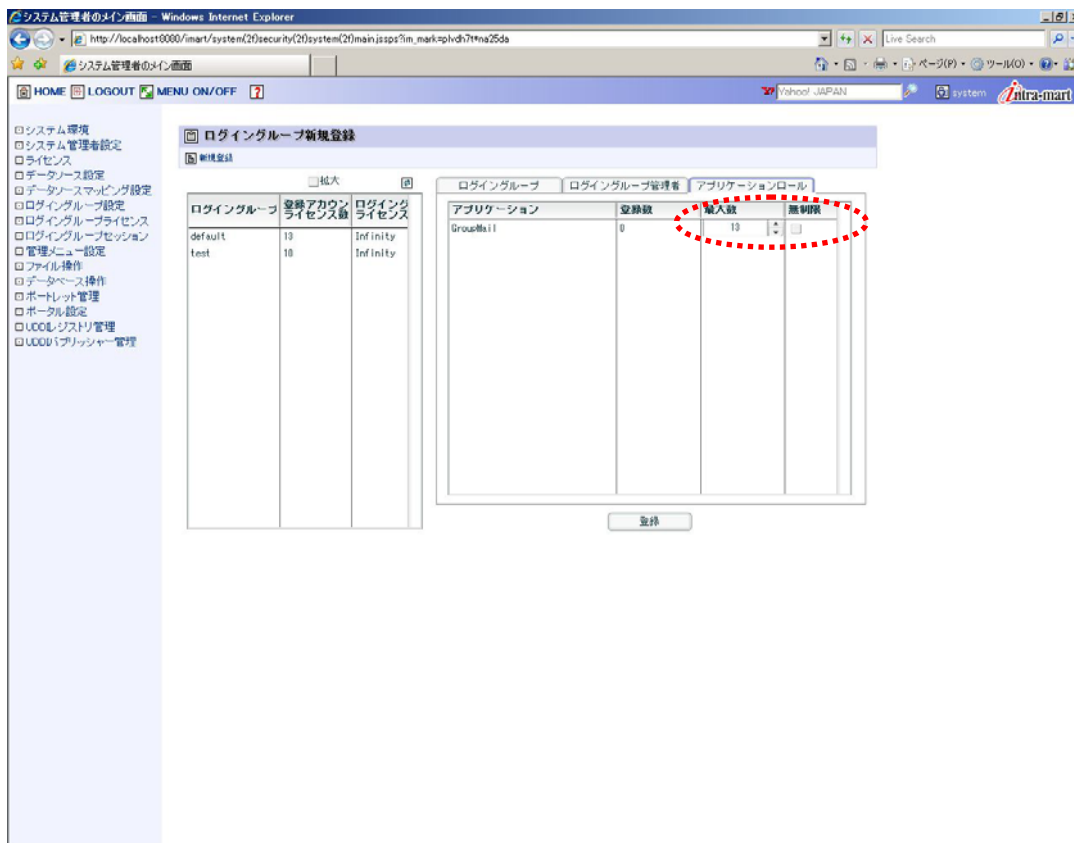
(今回の例では、「13」が登録されています。)



<図1 IMv7.1 ログイングループ管理者 アプリケーションロール一覧画面>

図2のIMv7.2システム管理者 ログイングループ設定画面のアプリケーションロールタブにて、ログイングループごとに各アプリケーションロール数の最大数を設定して下さい。

図1のようにアプリケーションロール数を「13」で登録していた場合、図2のログイングループ設定画面では「13」以上の値を設定して下さい。



<図2 IMv7.2システム管理者 ログイングループ設定画面>

2.9 設定ファイルの移行(その2)

2.9.1 ワークフロー関連のStorageServiceコンテンツの移行

以下のディレクトリを、ディレクトリ構造を保ったまま IMv7.2にコピーしてください。

- (1) 「<% IMv7.1 StorageService ルートディレクトリ %>/bpw/attach/」ディレクトリ
- (2) 「<% IMv7.1 StorageService ルートディレクトリ %>/bpw/code_manager/」ディレクトリ

2.9.2 アプリケーション共通マスタ関連のStorageServiceコンテンツの移行

以下のディレクトリを、ディレクトリ構造を保ったまま IMv7.2にコピーしてください。

- (1) 「<% IMv7.1 StorageService ルートディレクトリ %>/master/」ディレクトリ

2.9.3 ポータル関連のStorageServiceコンテンツの移行

以下のディレクトリを、ディレクトリ構造を保ったまま IMv7.2にコピーしてください。

- (1) 「<% IMv7.1 StorageService ルートディレクトリ %>/portal/data」ディレクトリ
- (2) 「<% IMv7.1 StorageService ルートディレクトリ %>/portal/war」ディレクトリ

2.9.4 クライアント通知関連のStorageServiceコンテンツの移行

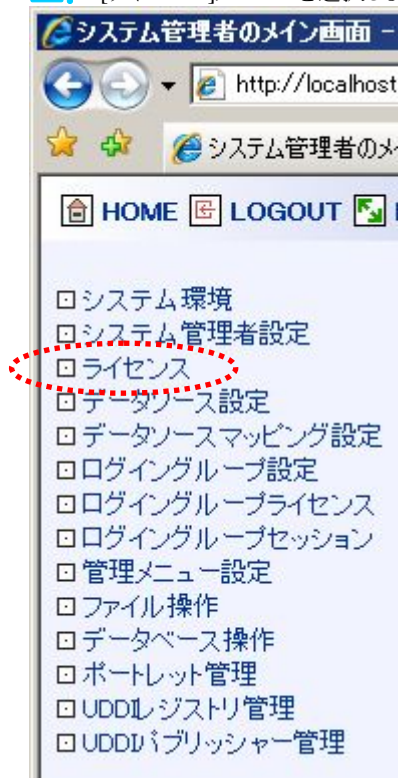
IMv7.1 にてクライアント配布用ファイルを作成し直した場合、以下のディレクトリを、ディレクトリ構造を保ったまま IMv7.2にコピーしてください。

- (1) 「<% IMv7.1 StorageService ルートディレクトリ %>/client_notice」ディレクトリ

2.10 データ移行モジュールによる初期データインポート

1. システム管理者にてログインします。

2. [ライセンス]メニューを選択します。



3. 「Migration Module[Ver7.1 to Ver7.2] Standard - Advanced」の[初期データインポート]欄のコンボボックスで、インポート対象のログイングループを選択し、[インポート]ボタンをクリックします。(下記の画面は、スタンダードおよびアドバンスの場合です。)ここでは、「default」を選択します。

Migration Module[Ver7.1 to Ver7.2] Standard - Advanced	
プロダクトタイプID	MI
バージョン	7.2.0
インストール日時	02/02/2010 13:46
初期データインポート	default <input type="button" value="インポート"/>

(注意) この操作は登録されているログイングループごとに行ってください。

項目	結果
テーブル作成(データベース)	インポートしませんでした。
ロール	インポートしませんでした。
アカウント	インポートしませんでした。
メニュー	インポートしませんでした。
カレンダー	インポートしませんでした。
バッチ	インポートしませんでした。
アクセスコントローラ	インポートしませんでした。
Webサービスアクセス	インポートしませんでした。
レコード作成(データベース)	インポートが成功しました。 system/migration/v71_to_v72_migration_portal.sql
拡張インポート(プログラム)	インポートが成功しました。 system/init/import_logo.js jp.co.intra_mart.foundation.portal.common.portletadmin.mbeans.PortletImport

2.11 アカウントデータのインポート

(注意) この操作は登録されているログイングループごとに行ってください。

- (1) IMv7.2にログイングループ管理者でログインしてください。
- (2) メニューから[ログイングループ管理]-[アクセスセキュリティ情報入出力]-[インポート]を選択します。
- (3) 右フレームの「アカウント」をチェックし、[ファイル]に「2.2 IMv7.1からのアカウントデータのエクスポート」にて作成したファイル名を指定し、[インポート]ボタンを押下します。
- (4) アカウントデータが反映されていることを確認します。

(注1) アカウント情報等の大量データをインポートするためには多くのシステムリソースを消費します。

一回のインポートは約5000件程度に分割してインポートすることをお勧めします。(インポート処理には数分~数十分かかる場合があります。)

ユーザ5000人につき、Application RuntimeとPermanent Data Serviceのそれぞれに、JAVAの起動メモリ-Xmsに約64MB、-Xmxに約128MBが必要です。

※各サービス(Javaプロセス)の起動メモリに関しては、管理ツール(intra-martAdministrator)を利用して設定をすることができます。なお、起動メモリ設定を変更した場合は、各サービスを再起動してください。

2.12 JSR168/286 ポートレットの更新

intra-martから提供されているポートレットは、以上の移行作業により移行完了です。

公開されている、あるいは自作したJSR168/286準拠のポートレットを利用している場合、ポートレットの更新が必要です。

利用しているポートレット全てに対して、ポートレットの更新を実行してください。

ポートレットの更新については、「ポータル システム管理者 操作ガイド」を参照してください。

2.13 BPMプロセスの移行

BPMプロセスの移行は、プロセス情報の移行のみサポートしており、IMv7.1上で実行されたプロセスインスタンス情報の移行は対象外となります。

BPMプロセスの移行は、下記のいずれかの方法により移行が可能です。

1. BPM|Designer7.1で作成されたビジネス・プロセス・プロジェクトを、BPM|Designer7.2にインポート後、BPM|Server7.2に対してプロジェクトのデプロイを実行する。
※ ビジネス・プロセス・プロジェクトによってはインポートが行えないプロジェクトが存在します。
2. BPM|Designer7.1上からBPM|Server7.2に対してデプロイを行う。
※ クラスタ環境では利用することが出来ません。

ビジネス・プロセス・プロジェクトのインポート方法は、「BPM|Designer 操作ガイド」に記載されている「プロジェクトのインポート/エクスポートについて」を参照下さい。

intra-mart WebPlatform / AppFramework Ver. 7.2
移行ガイド

2011/09/30 第2版

Copyright 2000-2011 株式会社NTTデータ イントラマート
All rights Reserved.

TEL: 03-5549-2821

FAX: 03-5549-2816

E-MAIL: info@intra-mart.jp

URL: <http://www.intra-mart.jp/>